

アメリカ学会 第47回年次大会プログラム

月日 2013年6月1日(土) 6月2日(日)

場所 東京外国語大学

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

会場校連絡先 金井 光太朗 (電話: 0422-36-7175 E-mail: kanai@tufs.ac.jp)

佐々木 孝弘 (電話: 045-717-5005 E-mail: taksas@tufs.ac.jp)

3. 受付 6月1日(土)・2日(日) 研究講義棟1階ガレリア中央部

4. プログラム

第1日 6月1日(土曜日)

自由論題 A 〈占領期日本とアメリカ〉 [研究講義棟1階107教室] (9:30~11:30)

司会 高原 秀介 (京都産業大学) コメント 松田武 (京都外国語大学)

佐藤 晶子 (大阪大学・院) 「占領期の公衆衛生: デミングの SQC 戦略と結核死亡率半減」

鈴木 紀子 (大妻女子大学) 「冷戦期の『文学大使』たち——戦後日米のナショナル・アイデンティティ形成における米文学の機能と文化的受容」

自由論題 B 〈政治の言説と空間〉 [研究講義棟1階108教室] (9:30~11:30)

司会 和泉 真澄 (同志社大学) コメント 森本 あんり (国際基督教大学)

島 晃一 (早稲田大学・院) 「預言者的言説と境界線——黒人神学の批判的検討」

石神 圭子 (北海道大学) 「アメリカにおけるコミュニティの組織化運動と新たな政治空間の模索——ソール・アリンスキーの哲学と実践を中心に」

自由論題 C 〈政策と経済理念〉 [研究講義棟1階113教室] (9:30~11:30)

司会 中島 醸 (千葉商科大学) コメント 岡山 裕 (慶應義塾大学)

向井 洋子 (琉球大学・講) 「アメリカにおける福祉国家再編の起源——ニクソン政権の福祉改革を中心に」

春田 素夫 「連邦準備法のオーサーシップ」

榊原 胖夫 (同志社大学・名) 「文化の多様性と経済の発展」

自由論題 D 〈文化と行為〉 [研究講義棟1階114教室] (9:30~11:30)

司会 高野 泰志 (九州大学) コメント 遠藤 泰生 (東京大学)

野村 奈央 (東京大学・院) “Amish Consumer Culture: Strengthening Community Bonds through Shopping”
大塩 真夕美 (白百合女子大学・講) 「19世紀後期ニューヨーク富裕層家庭における『使用人』についての一考察」

水島 新太郎 (近畿大学・講) 「『性的』『非性的』の狭間で葛藤する男同士の絆——1950年代ビート・ムーブメントの bromance (brother-romance)を中心に」

昼食休憩 (11:30~12:45)

理事・評議員会 (11:35~12:35) [研究講義棟2階226教室]

清水博賞 受賞式 (12:45~12:55) [プロメテウスホール]

シンポジウム 1 America at the Crossroads of Race and Politics: The 1960s to the Present

【人種と政治の交差点——1960年代以降のアメリカ】

(13:00~15:30) [プロメテウスホール]

司会・コメント 松本 悠子 (中央大学)

Matthew Frye Jacobson (ASA President, Yale University) “From Nixon’s Southern Strategy to Obama’s Victory: Debating the ‘Post’ of ‘Post-Civil Rights’”

David Farber (Temple University) “Black Power: Working the Interstices of Radical Activism and Insider Politics”

竹沢 泰子 (京都大学) “Post-Identity Politics and Beyond: Narratives and Works by Three Artists with Japanese American Heritage”

シンポジウム 2 平等概念の多様性 (15:40~18:10) [プロメテウスホール]
司会 古矢 旬 (アメリカ学会会長, 北海商科大学)
中野 耕太郎 (大阪大学) 「革新主義と社会的な平等」
樋口 映美 (専修大学) 「アメリカ史におけるカラーブラインドと公民権」
待鳥 聡史 (京都大学) 「アメリカ政治における異端的理念としての平等」

懇親会 (18:30~20:30) [大学生協食堂ミール]

第2日 6月2日 (日)

部会 A 「連続企画 アメリカの教え方 (教科書を作る)」 [研究講義棟 1階 115 教室] (9:30~12:00)
司会・報告 貴堂 嘉之 (一橋大学) 「私の高校世界史教科書づくりと大学での歴史教育」
報告者 鳥越 泰彦 (麻布高等学校) 「世界史教育のなかのアメリカ史」
渡辺 靖 (慶應義塾大学) 「入門テキスト『現代アメリカ』(有斐閣) の製作と刊行を振り返って」
杉野 健太郎 (信州大学) 「初学者のためのアメリカ研究教育」

部会 B 「核とアメリカ① 核/原子力言説と我々の現在」 [研究講義棟 1階 108 教室] (9:30~12:00)
司会 新田 啓子 (立教大学)
報告者 吉見 俊哉 (東京大学) 「夢の原子力——平和利用博覧会と大衆文化表象を中心に」
北野 圭介 (立命館大学) 「核の翻訳」
山口 菜穂子 (明治大学・講) 「誰が原子力災害を語るのか——福島の一とびとを犠牲者にしないために」

Workshop A “Pacific Worlds: Shared Environments, Sustainable Futures” (I)
[研究講義棟 1階 107 教室] (9:30~12:00)

Chair: Satoshi Nakano (JAAS, Hitotsubashi University)

Panelists: Moon-Ho Jung (ASA, University of Washington) “Revolutionary Currents: Race, Insurgency, and Empire Across the Pacific”

Eiichiro Azuma (JAAS, University of Pennsylvania) “Japanese Immigrant Settler Colonialism in the U.S.-Mexican Borderlands and the U.S. Racial-Imperialist Politics of the Hemispheric ‘Yellow Peril’”

Judy Tzu-Chun Wu (OAH, Ohio State University) “Patsy Takemoto Mink and Anti-Nuclear Activism: Cold War Militarism, Asian American Civic Inclusion, and Pacific Islander Sovereignty”

Commentators: Matthew Frye Jacobson (ASA President, Yale University)

Satoshi Nakano (JAAS, Hitotsubashi University)

昼食休憩 (12:00~13:30)

分科会 (12:10~13:25)

(内容については, pp.4~6 を参照) [研究講義棟 2階 207, 209, 211, 212, 213, 214, 223, 224, 225 教室]

総 会 (13:30~14:00) [研究講義棟 2階 226 教室]

部会 C 「移民問題の現在」 [研究講義棟 1階 115 教室] (14:10~16:40)

司会 久保 文明 (東京大学)

報告者 松岡 泰 (熊本県立大学) 「移民問題の諸相——移民送り出し国の移民対策を中心に」
西山 隆行 (甲南大学) 「移民政策と国境問題——麻薬、不法移民とテロ対策」
賀川 真理 (阪南大学) 「カリフォルニア州における高等教育と移民——ドリーム・アクトを中心に」

討論者 庄司 啓一 (城西大学)
村田 勝幸 (北海道大学)

部会 D 「核とアメリカ② 原子力平和利用と冷戦外交」[研究講義棟 1 階 108 教室] (14:10~16:40)
司会 李 鍾元 (早稲田大学)
報告者 中沢 志保 (文化学園大学)「マンハッタン計画下の原子科学者と原子力平和利用提言
——『ジェフリーズ報告』を中心に」
土屋 由香 (愛媛大学)「アイゼンハワー政権期におけるアメリカ民間企業の原子力発
電事業への参入と冷戦」
田中 利幸 (広島市立大学広島平和研究所)「なぜ原爆被害国が原子力大国になったの
か?——原子力平和利用と広島」
討論者 倉科 一希 (広島市立大学)

部会 E 「ポピュラーカルチャーと北米先住民」[研究講義棟 1 階 114 教室] (14:10~16:40)
司会・報告 長岡 真吾 (島根大学)「ポピュラーカルチャーと文化共有——チャーマン・アレクシー
における文化的同化」
報告者 余田 真也 (和光大学)「ステレオタイプからオルタナティヴへ——映画における北米
先住民像の変容」
鎌田 遵 (亜細亜大学)「ファッション・エンターテインメント産業におけるアメリカ
先住民の表象」
喜納 育江 (琉球大学)「『先住民性』の商品化と文化的正統性——ツーリズムとプエブ
ロ先住民のアート」

Workshop B “Pacific Worlds: Shared Environments, Sustainable Futures” (II)
[研究講義棟 1 階 107 教室] (14:10~16:40)

Chair: Noriko Ishii (JAAS, Sophia University)

Panelists: Anita Mannur (ASA, Miami University) “Writing the Waves of Tsunami: Kinship Networks in South
Asian Transnational Writing”

Jungman Park (ASAK, Hankuk University of Foreign Studies) “Once Upon a Time in the Corn Field:
Anti-Chinese Sentiment of the 1870 and Literary Reflection”

Yayoi Haraguchi (JAAS, Ibaraki University) “Building Resilience in Post Disaster Communities”

Commentators: Dong Ho Sohn (ASAK President, Hankuk University of Foreign Studies)

Bryant Simon (OAH, Temple University)

5. 1) 懇親会は事前の申し込みが必要です。払い込まれた懇親会費はいかなる事情があってもお返しできませんので、ご注意ください。

2) 年会費の当日払いは受け付けられませんのでご了承ください。

3) 非会員の大会参加費は、1,000 円です。会場受付にてお支払いください。

6. 1) 昼食: 1 日 (土), 2 日 (日) とともに、学食では飲食できません。大学付近の飲食店を利用するか、弁当等をご持参ください。飲食店もそれほど多くありません。両日ともに、持参の昼食を召し上がれる教室 (研究講義棟 1 階 101 教室) を準備しています。会場ではなるべくゴミを出さないよう、ご協力をお願い致します。

2) 東京外国語大学では、指定喫煙場所以外は禁煙となっています。

第 47 回年次大会 分科会 (12:10~13:25) のご案内
() は責任者。会場はすべて研究講義棟 2 階の教室です。

アメリカ政治 (平体 由美 (札幌学院大学)) [207 教室]

テーマ：転換期のアメリカ政治

報告：1. 山岸 敬和 (南山大学) 「“オバマケア”と転換期のアメリカ」

本発表では 2010 年 3 月にオバマ政権下で成立した「百年に一度の改革」と呼ばれる医療制度改革 (Patient Protection and Affordable Care Act, 以下オバマ改革) が、アメリカ医療制度の発展の中でどのような意味を持つのかについて述べる。また現在でも続くオバマ改革をめぐる争いについて言及しながら、今後のアメリカ政治にオバマ改革が与える影響について議論する。本格的施行が始まる 2014 年を前にして、オバマ改革の意味を再考しようというのが本発表の狙いである。

報告 2：清原 聖子 (明治大学) 「2012 年アメリカ大統領選におけるメディア・インターネット戦略」

2012 年大統領選挙戦では、有権者の選挙情報源として、ケーブルテレビに並んでインターネットが重要視される傾向が見られた一方で、テレビ広告量は 4 年前と比べて約 44% 増となった。はたして、これまでのテレビ中心選挙は後退し、インターネットが選挙戦のメディアとして主流となるのかどうか。本報告は、とりわけ急速に進展したスマートフォンの普及に注目し、関係者へのヒアリング調査を実施した上で、2012 年の大統領選挙戦においては、既存メディアやインターネット、さらに携帯電話の利用に関して 2008 年とどのような違いが見られたのかを明らかにする。

経済・経済史 (名和 洋人 (名城大学)) [209 教室]

テーマ：アメリカ貿易政策史——貿易障壁としての食品安全基準に焦点をあてて

報告：小山 久美子 (長崎大学)

新しい貿易障壁として近年注目されているものの中に、各国の食品安全基準の違いがある。現在、世界は貿易障壁を削減してさらなる自由化を進めていくため、食品安全基準の調和化を図る方向へ向かっている。つまり、グローバル・レベルでの食品安全の規制、基準が重要性を増している。このようなグローバル・レベルの動きは、各国の食品安全管理策に影響を及ぼすことになるが、一方で、逆に、主要国の国内動向がグローバル・レベルに影響を与えてきた。

このことに関して本報告は、アメリカの例を取り上げて歴史的観点から考察するものである。今や、グローバルな食品安全管理策として世界で重視されている HACCP (Hazard Analysis and Critical Control Point: 危害分析重要管理点) は、アメリカの 1980 年代初の連邦政府の食品安全管理の動向から大きく影響を受けた。今回の報告では、HACCP 導入にあたっての企業や連邦政府の見解のみならず、市民団体や労働団体の見解にも目配りしていきたい。

アメリカ女性史・ジェンダー研究 (小野 直子 (富山大学)) [211 教室]

テーマ：9.11 における女性の表象

報告：森川 智成 (東京大学・院)

9.11 をめぐっては、テロ攻撃の発生直後から現在に至るまで、数多くの表象が産み出されてきた。2001 年 9 月 11 日の明朗な朝にニューヨークに穿たれた巨大な空洞は、映画、小説、ファッション、政治など、さまざまな領域から数々のイメージを呼び寄せたのであり、今もなお呼び寄せ続けている。そこでは、「自由」、「民主主義」を象徴するアメリカのイメージが要請され、消防隊員に代表される数多くの「英雄」たちが産み出されてきた。それでは、大挙して押し寄せるこれらのイメージの群れの中で、女性たちはどのように表象されてきたのだろうか。彼女たちもまた、「英雄」として祭り上げられたのだろうか。それとも、ここでもまたある種の「沈黙」を強いられたのだろうか。本発表では、9.11 における女性の表象を追いながら、女性たちがどのように表象され、どのようにその表象を生きたのかを明らかにすることで、9.11 における女性の表象の意味を読み解いていく。

アメリカ国際関係史研究 (藤本 博 (南山大学)) [212 教室]

テーマ：書評会『冷戦史』の再検討—ウォルター・ラフィーバー著、平田 雅己・伊藤 裕子監訳『アメリカ VS ロシア 冷戦時代とその遺産 1945-2006』(芦書房, 2012 年) をめぐって

評者：青野 利彦 (一橋大学)

昨 2012 年に、米国を代表するアメリカ外交史家の一人であるウォルター・ラフィーバー (Walter LaFeber) による「冷戦史」の概説書の訳書が刊行された。原著 (*America, Russia, and the Cold War, 1945-2006*, 10th ed.) は、何度も改訂を重ね、非常に評判の高い「冷戦史」の概説書である。そこで、今年度の分科会では、本訳書刊行の機会に、書評会を通じて、昨年度に引き続き、「冷戦史」研究の課題とその可能性について議論したい。

本分科会では、まず評者を務めていただく青野利彦氏からラフィーバーの冷戦史論ならびに日本で本訳書が刊行された意義についてコメントいただき、その後、監訳者である平田雅己 (名古屋市立大学) と伊藤裕子 (亜細亜大学) の両氏から青野氏のコメントに対するレスポンスとともにラフィーバーの冷戦史論の意義等への言及もしていただく予定である。本分科会では、日本の大学において「冷戦史」を教授する

こととの関連で本訳書刊行の意義についても意見交換できれば幸いである。

日米関係 (浅野 一弘 (札幌大学)) [213 教室]

テーマ: 「英米の植民地主義と太平洋海底ケーブル」

報告: 土屋 大洋 (慶應義塾大学)

討論者: 大野 哲弥 (ライティング・アンド・ブレイン)

1881年、独立王国だったハワイのカラカウア王が来日し、明治天皇と会談した。王が天皇に提案したのは3点だったといわれている。第一に、日本移民の増加、第二に、自らの姪を皇室に嫁がせること、第三に、日本とハワイの間の海底ケーブルの敷設である。当時のハワイは、米国による併合の危機にさらされており、米国に対抗する力として日本からの援助を王は求めていた。王の三つの提案のうち、第二と第三の点については実現しなかった。第三の海底ケーブル敷設が実現するのは、王が亡くなり、米西戦争を契機にハワイが米国に併合された後の1903年になる。しかし、ハワイを経由して最後に残された大洋である太平洋に海底ケーブルを最初に敷設しようとしたのは、当時の世界の海底ケーブルの6割以上を支配していた大英帝国であった。本報告ではなぜ大英帝国の「全赤線」と呼ばれるグローバルな海底ケーブルにハワイが接続できず、米国のものとなったのかを検討したい。

アメリカ先住民史研究 (佐藤 円 (大妻女子大学)) [214 教室]

テーマ: 19世紀末アメリカ先住民教育政策史——その研究史と現在の課題について

報告: 宮下 敬 (立命館大学)

本報告では、内外の研究者がこれまで行ってきた19世紀末のアメリカ先住民教育政策に関する研究状況を紹介していく。具体的には、当該時代の研究の画期となった歴史研究者 (プリースト、プルーカ、ホクシー、アダムズ) の研究業績を時系列に沿いながら紹介していく。

その上で、とりわけ1990年代以降の研究にみられる3つの問題点——I. 研究の結論が「アメリカ化」や「人種差別主義」を指摘するに止まること、II. アメリカ史・世界史として通用するマクロな視点が見いだせないこと、III. 使用する資料や方法論がマンネリ化していること) を、内外の研究者が現在どのように乗り越えようとしているのかについて説明していきたい。

初期アメリカ (橋川 健竜 (東京大学)) [223 教室]

テーマ: “*Columbia Rising: Thoughts on Public Sphere and the State in the Early American Public*”

(「共和国初期における公共圏と国家: *Columbia Rising* 執筆を踏まえて」)

報告: John L. Brooke (Ohio State University) (ジョン・L・ブルック オハイオ州立大学)

コメント: 肥後本 芳男 (同志社大学)

橋川 健竜 (東京大学)

ユルゲン・ハーバーマスが提起した「公共圏」概念が、冷戦後になって英語圏の政治哲学や社会科学の領域で注目を集めたことは周知のとおりである。だが同時に初期アメリカ研究、特に植民地時代後期から共和国初期にかけての歴史や文学研究の分野でもその有効性をめぐって多くの議論が交わされたことは、それほど知られていない。初期アメリカ研究の領域では、政治哲学などにおける議論とは異なり、公共圏概念と史料との整合性が、論点の一つとして浮上せざるを得ない。本分科会では、資料に基づいた実証的な議論の中に、公共圏概念の有効性に関する検討を含めた *Columbia Rising: Civil Life on the Upper Hudson from the Revolution to the Age of Jackson* (Chapel Hill: University of North Carolina Press, 2010) の著者であるジョン・ブルック氏を迎えて、公共圏に着目して18・19世紀史を検討することの意義と課題を検討したい。会員諸氏の積極的参加を期待している。本分科会は英語で行う。

アジア系アメリカ研究 (野崎 京子 (京都産業大学・名)) [224 教室]

テーマ: アジア系アメリカ研究とオーラル・ヒストリー

報告: 松本 ユキ (大阪大学・院)

2012年8月から約一年にわたるカルフォルニア大学バークレー校のエスニック・スタディーズへの交換留学を通じて、オーラル・ヒストリーとアジア系アメリカ研究の関係について考えさせられた。

アジア系アメリカ研究の授業の受講者は、家族や友人、教員など身近な人物にインタビューをし、個々の経験を見聞することで、自分たちの歴史について理解を深めていく。このようなオーラル・ヒストリーの手法は、アジア系アメリカ研究において非常に重要な意味を持っている。

オーラル・ヒストリーは、大学以外の場でもアジア系アメリカ人の歴史を継承し、自らのコミュニティを形成するうえで大きな役割を担っている。本発表では2012年の8月から10月の間に西海岸で上演されたアジア系アメリカパフォーマンスにおいて、オーラル・ヒストリーの手法がどのように取り入れられていたのかを検討したい。

文化・芸術史 (小林 剛 (関西大学)) [225 教室]

テーマ: ユートピアのレトリック——1939年ニューヨーク万博とアールデコ

報告: 江崎 聡子 (青山学院女子短期大学・講)

1939年にニューヨーク市で開催されたニューヨーク万博において、アールデコ様式は万博のコンセプトであった科学と技術によって実現される民主主義や消費文化といったものを表現し、アメリカを一つのユートピアとして語るための視覚言語として用いられた。このデザイン様式は、マシーンエイジの文化的背景、テクノロジーによるユートピア主義思想、そして生産様式および視覚的類似性両方における機械との親和性といった要因から、アメリカを大衆消費社会によって実現される民主主義のユートピアとして賛美するための視覚言語として機能することを期待されたのである。本発表では、二十世紀前半のアメリカにおける視覚文化の文脈において、アールデコ様式がテクノロジー崇拜主義やユートピア、そして未来のイメージといったものとのような関係を結んでいたのかを、主にニューヨーク万博を例にとりあげ考察する。ヨーロッパで誕生したこの装飾様式がどのようにアメリカに浸透し、そしてどのように当時の「未来」や「ユートピア」といった概念と結びつき、なぜこれらの概念を表象するレトリックになったのかを検証したい。

会場案内 (6月1日(土)・2日(日) 共通)

受付 研究講義棟 1階ガレリア中央部
会員用休憩所 研究講義棟 1階 109 教室
書店等の出展 研究講義棟 1階ガレリア入口寄りの部分、102 教室
役員控室 研究講義棟 2階 220 教室
外国人ゲスト控室 研究講義棟 2階 222 教室
本部・スタッフ控室 研究講義棟 1階 104 教室

6月1日(土)

午前 自由論題 研究講義棟 1階各教室
昼食時 研究講義棟 1階 101 教室 (昼食が食べられます)
 理事・評議員会 研究講義棟 2階 226 教室
午後 授賞式・シンポジウム アゴラ・グローバル、プロメテウスホール
懇親会 大学会館、大学生協食堂ミール

6月2日(日)

午前 部会およびワークショップ 研究講義棟 1階各教室
昼食時 研究講義棟 1階 101 教室 (昼食が食べられます)
 分科会 研究講義棟 2階各教室
 総会 研究講義棟 2階 226 教室
午後 部会およびワークショップ 研究講義棟 1階各教室